

① 野原  
② 明ける  
③ 親友

④ 東西  
⑤ 上京

② わら  
2 ウ

3 B・D・G  
4 I  
I  
II  
工

(順不同・完答)

5 五  
百  
年  
6 イ

7 立  
8 ア

③ 1 ア  
2 秋

3 ラ  
ン  
ド  
セ  
ル  
4 イ

5 B  
ウ  
C  
エ  
D  
ア

6 イ  
7 ウ

配点	
①	各2点×5=10点
②~③	各5点×18=90点
＜計＞100点	

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「野原」は草などが生えた、人家のない広い平地。「野」の右側の「予」の部分ぶぶんを正しく書いてほしい。②「明ける」は何かが終わって新しくなること。「年が明ける」「梅雨つゆが明ける」などと使う。同じ訓読みの「開ける」「空ける」との使い分けをおぼえよう。③「親友」は心からうちとけた親しい友人。「親」を「新」とまちがえないこと。④「東西」はここでは「東と西」ではなく「東洋と西洋」のこと。⑤「上京」は地方から東京に行くこと。

②

1 あとの説明の部分にも出てくるが、ことわざとしておぼえておいてほしい。  
2 浮き輪うきわや流れてきた木ならともかく、麦あわわらにつかまっても助すけからない。問題を解決かいげつするための正しい判断はんだんができなくなっているのである。ピンチにおちいても冷静れいせいさを失うしなわない、たくましい心があれば、そんなことにはならない。  
3 Bは「同時につかまえよう」、Dは「よくばって手に入れよう」、Gは「ともにがしてしまふ」から、それぞれ「二」に決まる。Aは「だけでも」、CはDと合わせて「一度に二つのものをよくばって」、Eは「よくばらずに」「集中」、Fは「は手に入る」、Hは「確実に」から、それぞれ「一」に決まる。落ち着いて考えて確実に正解してほしい。うさぎの数え方は「羽」であった。ほかにもいろいろな物の数え方を調べてみよう。

4 I つかまえるだけでも大変で同時に(二つ)は無理だ↓(I) ↓よくばって(二つ)手に入れようとすると結局はどちらも手に入らない。前後で同じこと(二兎は無理だ)を述べているので「つまり」がはいる。

II 二兎を追うとどちらも手に入らない↓(II) ↓(一つに)集中すれば(一つは)手に入る。前後でちがうことを述べているので「しかし」がはいる。

5 一日では完成かんせいさせることができないということである。本文は四つに分かれている。ならば答えは、このことわざを説明している部分にあるのではないかと見当をつけてほしい。ただし「どのくらい」かかったかをたずねているので「長い間」では説明不足である。

6 「大きな仕事」を「成しとげ」る元になるのは「一日」ごとの努力だということである。アでは「努力」しなくてもよいようである。ウの「五百年」は一人のサッカー選手には無理な話である。エのように「ローマ」を大切にしても「サッカーの日本代表選手」にはなれない。

7 「役に立つ」は何かの用に使えるということ。「腹が立つ」「波が立つ」「矢が立つ」「市が立つ」などいろいろおぼえよう。

8 「ほかの人がまちがったこと」を「教訓」にしようということわざであった。ウ・エはよくないあつかいなのであてはまらない。イはマイナスの評価ひょうかではないが「教訓」なのでアの「教え」がふさわしい。

③

1 「玄関のかたすみ」の「ワラ」のはいった「おうち」にいて、まいにち「散歩に連れてって」もらい、「マーキング」をするのが「ボク」である。

2 日本の話のようなので、これは麦ではなくイネのワラであろう。「新しいワラ」つまりお米がとれるのは秋である。

3 「小学二年生」の「桜ちゃん」が「ガッコウ」に「背負って」いくものである。女の子なので「赤い」のであろう。「ガッコウ」がカタカナ表記になっているのは、犬である「ボク」にはその意味がわかりにくいものであることを示すためである。

4 イヤがっている「それ」は、「もっと先の電信柱まで(行くこと)」である。「桜ちゃん」が遠くへ行きたがらないのはどうしてであったかと考えてほしい。

5 B 遠くへ行こうとする「ボク」と、家に「帰ろう」とする「桜ちゃん」。犬の散歩なので首輪くびわにリード(引き綱づなやくさり)がつけられているのであろう。場面のようすを想像してほしい。

C 「お母さんが病気で亡くなって、泣いてばかりいた桜ちゃん」が「さびしくないように」するためにやってきたのが「ボク」である。アでは「桜ちゃん」が家族でなかったことになる。イでは「桜ちゃん」が病気だったようである。ウでは正反対である。

D 「口げんか」「反抗的」とあるので、とても悪い子になったようであるが、お父さんの言うことをすなおに聞く子供だった「桜ちゃん」が成長して、少し「大人」になってきたのである。直前の「変わってしまった」に引きずられて、ウにしてはいけない。

6 中学生になったのである。直前に「大きくなった」とあった。

7 愛情あいじょうを理解してもらえず悲かなしくて切ないのである。アであるはずがないし、イまでのことはない。エは直前にあったことばで、今の桜ちゃんのあつかいかたに困っていることを表しているが、それは「気持ち」を表すことばではない。